

一般国道7号新潟市東大通～榎谷小路の景観整備計画について

市村幸晴*

1. はじめに

本対象区間は、新潟の玄関口である新潟駅前～商業中心地区である万代シテイ～新潟のシンボル万代橋～商業で賑わう古町を貫き、日本海に向かう新潟市の都心軸に位置し、新潟のシンボルロードとなっている。

(図-1)

このため以前より道路景観について検討が行われており、昭和61年度からキャブ事業等による無電柱化に取り組むとともに、民間においても昭和60年から万代橋のライトアップ、平成3年度には東大通のガス燈設置が行われている。

しかし、以前は対象区間全体の統一された景観整備イメージがなかった。そこで、この道路を環日本海の拠点都市新潟の都心軸にふさわしい景観及び、快適な歩行者空間形成を図ることを目的として学識経験者、民間代表者、行政機関が三者一体となった景観検討委員会を発足させ、検討を実施した。今回の報告は委員会での検討に基づく景観整備計画の概要を報告するものである。

2. 調査対象地域の概要

調査対象とする新潟駅から榎谷小路は、約4万台/12hの交通量があり、歩行者交通2万人の利用がある主要幹線道路である。

本検討については、対象区間における地上部道路景観の検討及び、新潟駅から万代橋までの主要4交差点に予定されている地下広場（地下横断歩道）の景観を検討対象としている。(図-2)

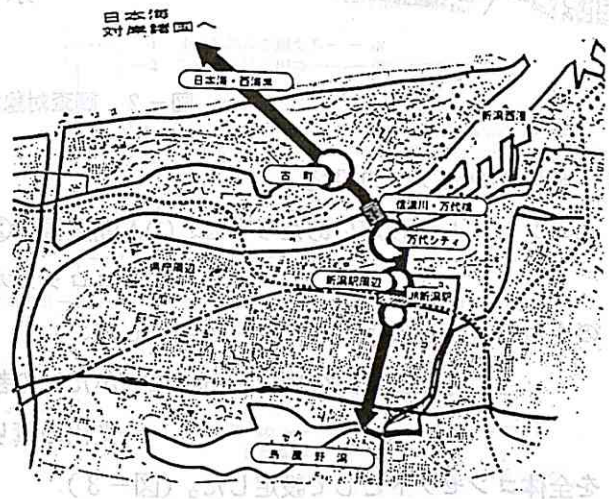


図-1 新潟の都心軸

* 建設省北陸地方建設局 新潟国道工事事務所 調査課 計画係長

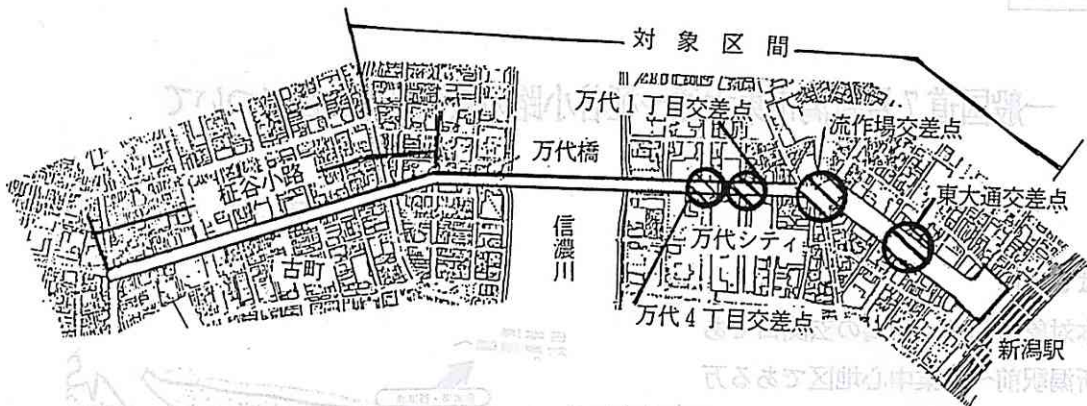


図-2 調査対象地区

3. 全体コンセプトの設定

コンセプトの設定にあたっては、①人間重視 ②新潟らしい景観

③エコロジカルな環境 ④洗練されたデザイン

の4つの視点を設定し、これらを包括して、

【環日本海の中核都市“にいがた”の都心軸にふさわしい

文化の薫りあふれる都市空間の創造】

を全体コンセプトとして設定した。(図-3)

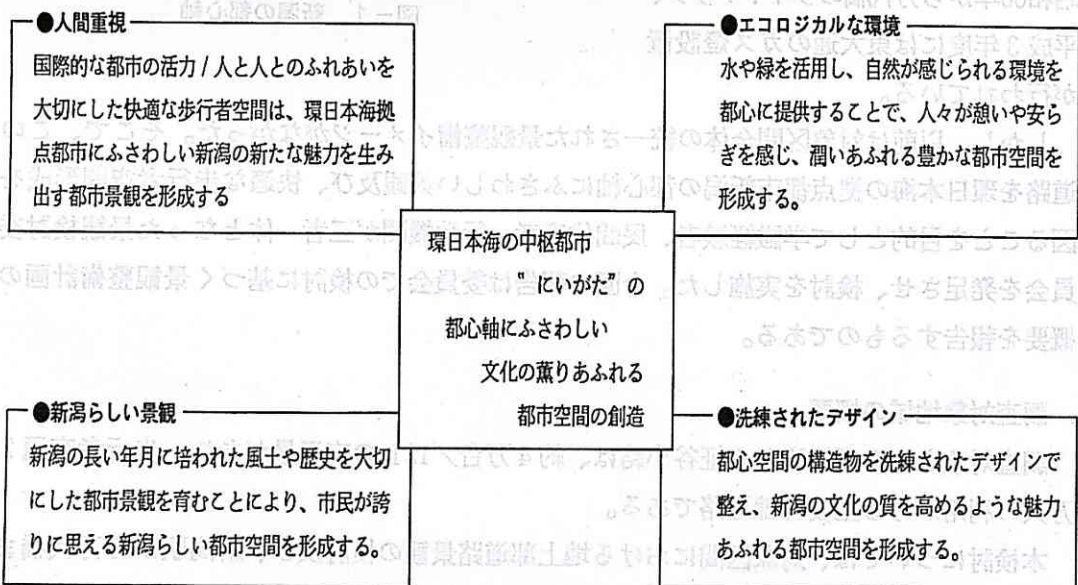
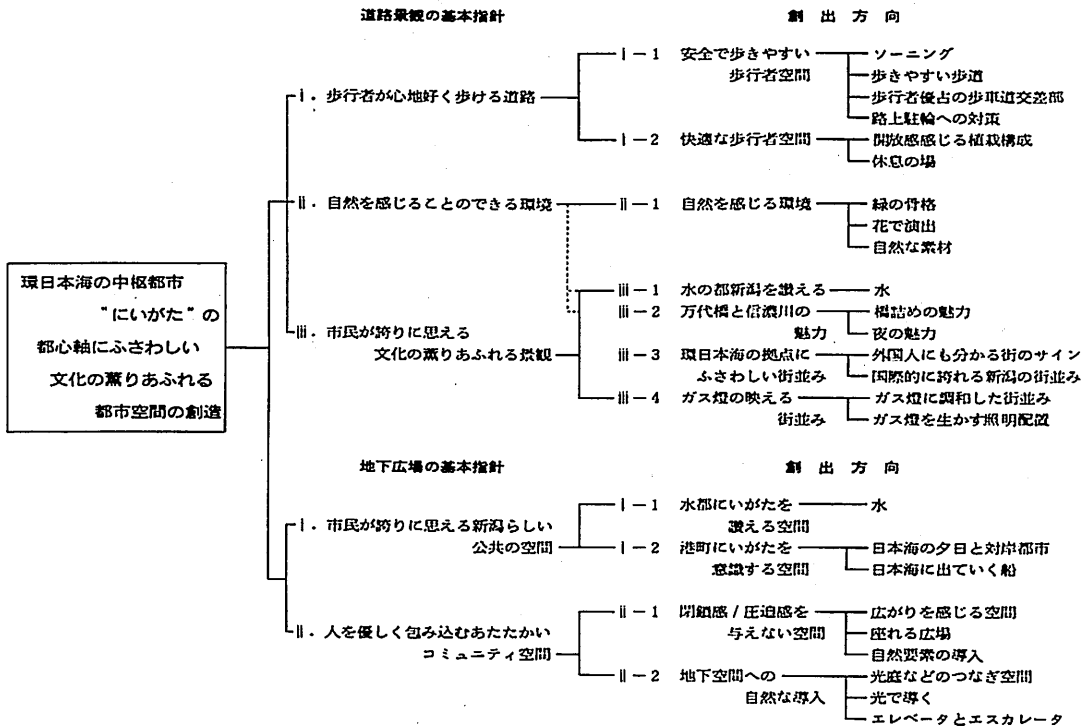


図-3 都市空間創造の4つの視点と全体コンセプト

4. 道路景観の基本指針について

次にコンセプトをふまえ、地上部、地下部についての基本指針の設定を実施した。



以上のような、基本指針を受け、地上部（道路景観）、地下部（地下広場）についての具体的整備イメージを以下に述べる。

4.1 地上部（道路景観）の整備

4.1.1 歩行者が心地良く歩ける道路

- ① 歩行者と自動車の分離を明確にし、歩行者に心地良い歩行者環境を提供する。

(図-4)

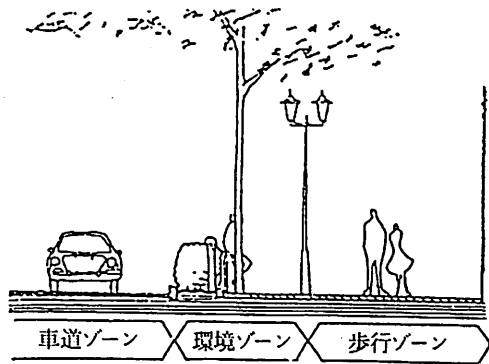


図-4 道路のゾーン区分図

- ② ガス燈、街路樹、ストリートファニチャー等を設置し環境ゾーンを創出する。

- ③ 歩行者が安全で歩きやすい歩道整備として、歩道部の段差の解消、歩きやすい歩道路面の工夫、歩車道交差部で歩行者優先を意識させる等の整備を実施。

- ④ 歩行者が開放感を感じる街路樹構成とし、高木低木中心の植栽を実施する。

- ⑤ 何気なく座れる場所の創出。(図-5)

4.1.2 自然を感じることでできる環境

- ① 緑の連続性を確保した都市景観の形成を図り、歩行者に緑陰を提供する。(図-6)

② 花を活用して季節感を演出し、都心の殺伐とした景観の中で自然を感じる空間の創出。

③ 自然素材（石、木）を積極的に活用する。

4. 1. 3 市民が誇りに思える景観

① 水都新潟を意識し、アイストップとなる街角に、水のモニュメント等の設置。（図-7）

② 新潟のシンボル万代橋の景観的魅力を高める工夫。

③ 国際都市新潟として、外国人用サインの設置。

④ 文化都市=新潟をアピールする洗練されたデザインを導入して質の高い整備を実施する。

⑤ ガス燈を活かした照明整備を行い、ガス燈の映える街並みを創出する。

4. 2 地下部（地下広場）の整備

4. 2. 1 市民が誇りに思える新潟らしい公共空間

① 水都新潟の市民が誇れる地下空間の創出として水をテーマにした演出を図る。

② 地下空間に“港町”や“海”を意識できるような演出を図る。

4. 2. 2 人をやさしく包み込む空間

① 地下に入った際の心理的、生理的圧迫感をなくし広がりを感じる空間の創出。

② 地下への導入には車椅子利用者でも利用できるようエレベーター／エスカレーターを取り入れる。

③ 自然光・水・緑の導入を行い、地上に近い環境を地下に提供する。

④ 地上と地下の照度の違いを緩和し、地上と地下のつなぎ空間の照明を工夫する。

⑤ 座れる場所、憩える場所としての工夫。



図-5 座れる場所の多い広場
（チェコ プラハ）

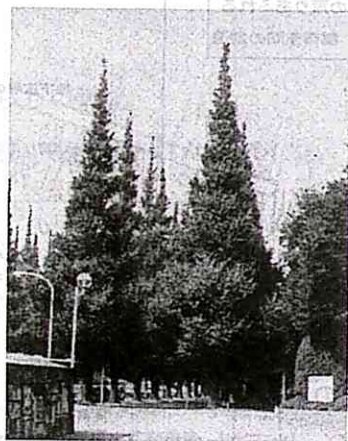


図-6 連続した街路樹
（東京都 港区）



図-7 水のモニュメント
（神奈川県 横浜市）

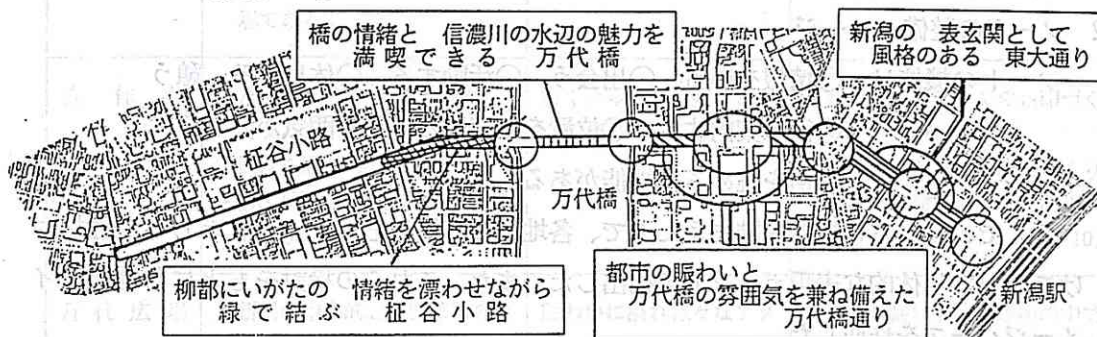
5. 整備イメージ

次に、地上部（道路景観）、地下部（地下広場）の具体的な整備イメージについて、それぞれの場所性を考慮して、人が移動する場所（パス）、人々が集いたまる場所（ノード）の2つの要素で分類し、ゾーン分けを行い検討を実施した。

5.1 パスの整備イメージ

パスの機能は、○移動する ○場所と場所を結ぶ ○街並をながめる 機能がある。

そこで、それらの機能を踏まえた上で、各地域の特性に応じたパスとしての性格づけを行い具体的な表現ポイントを抽出した。また、これらの検討をもとに各地域のイメージパスを作成した。



パス	特性	パスとしての性格づけ	性格の表現ポイント
東大通り	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の道路である。 ・高幅員(約50a強)の道路である。 ・沿道にはオフィスビルが建ち並んでいる。 ・ガス燈が設置済である。 	新潟の表玄関として風格のある東大通り	<ul style="list-style-type: none"> ・大通りとしての風格を持つ道路プロポジションの形成 ・歩行者の安全性と快適性を有し、連続性のある歩行者動線の強化 ・沿道の建物、ガス燈と調和した道路景観イメージの形成 (図-8)
万代橋通り	<ul style="list-style-type: none"> ・流作場五差路、万代1、4丁目交差点、万代橋橋詰広場を結ぶ道路 ・東大通りより道路が狭い。 ・かつて初代万代橋が架かっていた区間である。 	都市の賑わいと万代橋の雰囲気兼ね備えた万代橋通り	<ul style="list-style-type: none"> ・流作場五差路から賑わいのある万代シテイ、安らぎのある万代橋橋詰広場を円滑に結ぶ歩行者動線の強化 ・初代万代橋が架かっていたという歴史性をモチーフとした道路景観イメージの形成 (図-9)
万代橋	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市のシンボル ・6連のみかけ石張アーチ橋と信濃川の流れが生み出す新潟を代表する景観である。 ・昭和53年から夜間ライトアップしている。 	橋の情緒と信濃川の水辺の魅力を満喫できる万代橋	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟のシンボルゾーンにふさわしい演出が施された歩行者空間 ・万代橋のデザインをモチーフとした橋上の歩道景観イメージの形成 ・水辺に映える明かりを演出した夜の名所づくり
証谷小路	<ul style="list-style-type: none"> ・万代と古町の新潟を代表する2つの繁華街を結ぶ区間である。 ・柳並木の植栽がかつて堀割の街並みであったことを漂わせている。 ・鏡橋交差点には、かつて橋があったことを示す石碑がある。 	柳部にいがたの情緒を漂わせながら緑で結ぶ証谷小路	<ul style="list-style-type: none"> ・万代と古町を結ぶ快適な歩行動線の強化 ・堀と柳の街並であったことを伝える道路景観イメージの形成 ・鏡橋交差点での水を生かしたポケットパーク

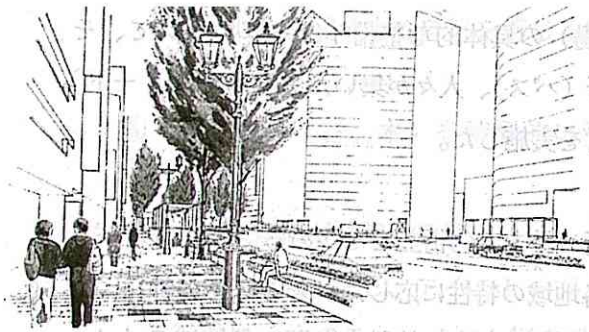


図-8 東大通イメージパース

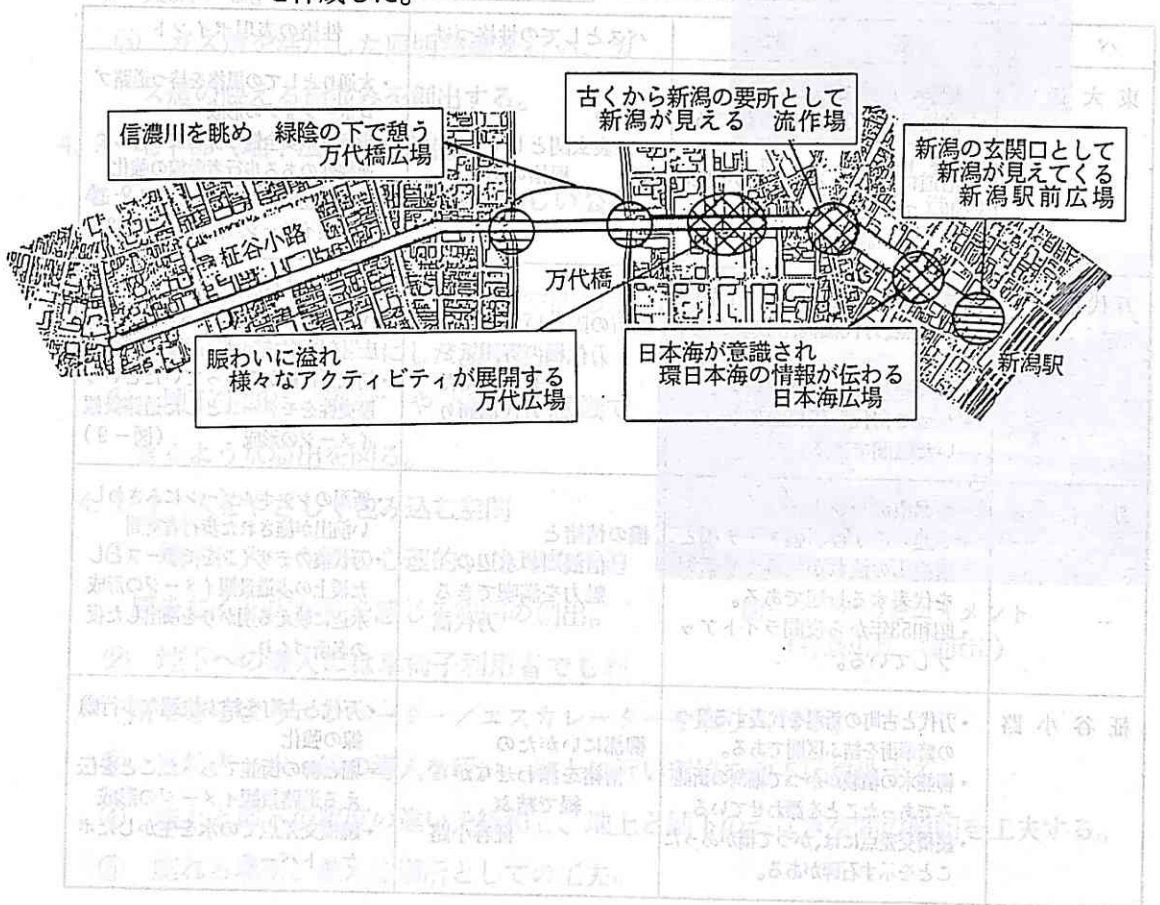


図-9 万代橋通りのイメージパース

5. 2 ノードの整備イメージ

- ノードの機能は、○情報を得る ○出会う ○活動する ○休息する、憩う
- 街を案内する ○位置を確認する ○雰囲気が変わる
- 街を眺める 機能がある。

そこで、それらの機能を踏まえた上で、各地域の特性に応じたノードとしての性格づけを行い、具体的な表現ポイントを抽出した。また、これらの検討をもとに各地域のイメージパースを作成した。



ノード	特 性	ノードとしての性格づけ	性格の表現ポイント
新潟駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> 新潟を訪れた人が初めて新潟を見る場所である。(新潟の第一印象を与える場所) JR新潟駅の乗降客で人の往来が多い。 	新潟の表玄関口として新潟が見えてくる駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> 新潟駅を降りて、東大通りへ人を導くような広場づくり 新潟の顔となる広場として、新潟の街が感じ取れる広場の雰囲気づくり
日本海広場	<ul style="list-style-type: none"> 周辺は駅前のビジネス街である。 ここから地下広場が始まる。 地下に新しく生み出される広場である。 	日本海が意識され環日本海の情報が伝わる広場	<ul style="list-style-type: none"> 海に近いことを意識できる広場づくり 対岸諸国の情報も受けられる国際性豊かな広場づくり
流 作 場	<ul style="list-style-type: none"> 万代橋通りと東大通りのアイストップポイントである。 周辺で開発が進む可能性がある。 初代万代橋の橋詰であった場所である。 	古くから新潟の要所として新潟が見える広場	<ul style="list-style-type: none"> 新潟の要所としての目印づくり 新潟の街が見える広場づくり 将来の開発に合わせた広場づくり (図-10)
万 代 広 場	<ul style="list-style-type: none"> 新潟の中心的商業繁華街の真ん中に位置し、活気に溢れている。 バスの乗り降りで道路を横断する人が多い。 	賑わいに溢れ様々なアクティビティが展開する新潟の中心となる広場	<ul style="list-style-type: none"> 密度の高い商業繁華街の中で多様なアクティビティを誘発する広場づくり 賑わいの中でも人々がくつろげる広場づくり (図-11)
万代橋広場	<ul style="list-style-type: none"> 信濃川の水辺や万代橋のアーチが眺められる新潟の名所(昼も夜も) 周辺にアミューズメント性の高い施設が集積しつつある。 	信濃川と万代橋を眺め緑陰の下で憩う広場	<ul style="list-style-type: none"> 信濃川と万代橋の新潟を代表する景観を眺める魅力あふれる視点場の形成 緑陰の下でのんびりくつろぐオアシス広場

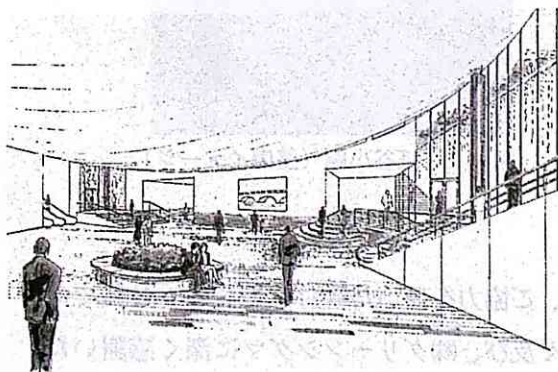


図-10 流作場広場イメージパース

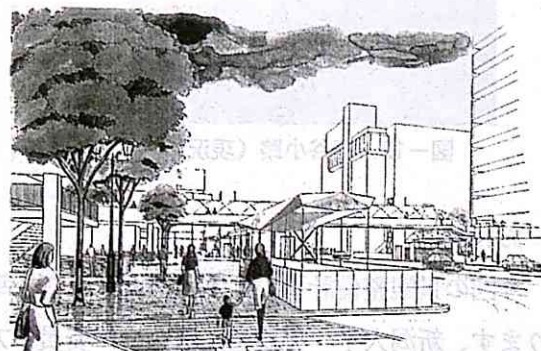


図-11 万代広場イメージパース

6. 地元住民からの協力

魅力ある公共空間を生み出す為には、行政機関の整備だけではなく、道路利用者である地元住民からの協力が不可欠であり、官民が一体となった整備が必要である。その方策について具体的な項目を以下にあげる。

- 沿道建築物のセットバックや公開空地の協力。
- 路置看板や自転車の歩道上の放置禁止。
- 夜間景観を配慮したネオンサイン看板や建物照明の工夫。
- 地域住民の花や木の管理の積極的参加。

7. 景観整備計画に基づく事業の実施

各事業者が当地区において事業を実施する際には、景観整備計画に基づき、関係機関、地元住民との調整を行い、整備を実施することとしている。

現在、万代1丁目交差点の地下部（地下広場）について、歩行者の利便性や水、緑、自然光の導入などに配慮した地下空間を形成すべく具体的な設計を進めている。

また、今年度にアーケードのリニューアルを行う榎谷小路において植栽・緑化の整備を進めていく予定である。（図-12、13）



図-12 榎谷小路（現況）



図-13 榎谷小路（整備イメージ）

8. おわりに

今回の景観整備計画の策定にあたり、ご指導、ご協力を頂いた検討委員会の委員長であります、新潟大学 樋口教授ならびに委員の方々及び、㈱グリーンシグマに深く感謝いたします。